

議事概要録

件名	第2回 新得町観光振興ビジョン検討会議																																		
日時	平成29年7月19日(水) 18:00~20:05																																		
場所	新得町役場第3会議室																																		
出席者	・検討会議委員 (五十音順、敬称略) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">委員名</th> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 20%;">出欠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新得ハイヤー有限公司</td> <td>石畑 政俊</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>みなとや</td> <td>今井 崇敬</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>新得町商工会</td> <td>岩宮 佳佑</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>一般公募</td> <td>加藤 博</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>宮城屋</td> <td>金沢 陽子</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>株式会社マルサ 齊藤商店</td> <td>齊藤 武</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>共働学舎新得農場</td> <td>高橋 英夫</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>TACとかちアドベンチャークラブ</td> <td>野村 竜介</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>新得町観光協会</td> <td>藤森 宗智</td> <td>出席</td> </tr> <tr> <td>新得神社氏子会</td> <td>古川 盛</td> <td>出席</td> </tr> </tbody> </table>		委員名		出欠	新得ハイヤー有限公司	石畑 政俊	出席	みなとや	今井 崇敬	出席	新得町商工会	岩宮 佳佑	出席	一般公募	加藤 博	出席	宮城屋	金沢 陽子	出席	株式会社マルサ 齊藤商店	齊藤 武	出席	共働学舎新得農場	高橋 英夫	出席	TACとかちアドベンチャークラブ	野村 竜介	出席	新得町観光協会	藤森 宗智	出席	新得神社氏子会	古川 盛	出席
委員名		出欠																																	
新得ハイヤー有限公司	石畑 政俊	出席																																	
みなとや	今井 崇敬	出席																																	
新得町商工会	岩宮 佳佑	出席																																	
一般公募	加藤 博	出席																																	
宮城屋	金沢 陽子	出席																																	
株式会社マルサ 齊藤商店	齊藤 武	出席																																	
共働学舎新得農場	高橋 英夫	出席																																	
TACとかちアドベンチャークラブ	野村 竜介	出席																																	
新得町観光協会	藤森 宗智	出席																																	
新得神社氏子会	古川 盛	出席																																	
	(18:25 途中退出)																																		
	・事務局 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tbody> <tr> <td style="width: 60%;">産業課長</td> <td>石塚 将照</td> </tr> <tr> <td>産業課課長補佐</td> <td>佐々木 隼人</td> </tr> <tr> <td>産業課観光計画係長</td> <td>金澤 直樹</td> </tr> <tr> <td>産業課観光計画係</td> <td>村瀬 祐樹</td> </tr> </tbody> </table>		産業課長	石塚 将照	産業課課長補佐	佐々木 隼人	産業課観光計画係長	金澤 直樹	産業課観光計画係	村瀬 祐樹																									
産業課長	石塚 将照																																		
産業課課長補佐	佐々木 隼人																																		
産業課観光計画係長	金澤 直樹																																		
産業課観光計画係	村瀬 祐樹																																		
資料	資料1：第1回 新得町観光振興ビジョン検討会議意見のポイント 資料2：新得町観光振興ビジョン(仮称)骨子案 資料3：新得町観光振興ビジョン(仮称)【たたき台】 資料4：無料観光循環バス 運行実績																																		

議事内容

1 開会・挨拶

- ・進行：産業課佐々木補佐
- ・産業課石塚課長から挨拶

【石塚課長】

- ・第2回の検討会議にご参加いただき、誠に感謝。
- ・事務局で観光振興ビジョンの骨子案とたたき台を作成した。本日の会議では、これを基に骨子を決定していきたいので、ご検討をお願いしたい。

2 議事

- ・進行を石畑委員長に交代
- ・会議の内容に入る前に、金沢委員からアイデアのプレゼンテーション

【金沢委員】

- ・うまく自分の言いたいことが表現できないのでビジュアル化してきた。
- ・私個人の中の新得の理想・夢を形にした。
- ・冬は駅前イルミネーションできれいだが、それ以外の時期はかなり暗い状況。
- ・イルミネーションは素晴らしいが一過性のもので、新得全体を照らし出していない。
- ・イルミネーションは費用がかかるかもしれないが、ソーラーライトのLEDだと数千円で済み、簡単に設置できる。初期費用はかかるが、その後は無料。このくらいのコストなら個人でも町のためにということでは有志が集まれば普段から町を明るくしておくことができ、暗い気分を一掃できる。寂れているというイメージを払拭したいと考え、提案した。
- ・「まずは簡単に実行可能なビジョンをイメージ」ということで、人が集まってくるとは楽しくなくちゃということで「楽しい」、初めから新得にあるそばやチーズなどの「おいしい」、「美しい」は四季を通じて表現できる象徴する何かつくらないと人が寄ってこないということで、町のメイン通り、飲食店街、川辺をLEDのソーラーライトで照らし出そうという企画を作った。
- ・お金をかけずに情報を発信するなら、今はインスタグラムの時代。ビジュアルで表現でき、色々な地域で効果も出ている。行動しやすく費用もかからず、その割に効果があるということを取り込んでいくことが重要。
- ・長期的な展望としては、走っているSLが楽しかったのであって、止まっているSLは面白くない。川沿いを短距離でも走らせられれば全国から鉄道ファンが殺到する。埼玉県大宮市（現さいたま市）には鉄道博物館がある。新得も鉄道の町なので交流ができれば。
- ・宝物がいっぱいある町だということに改めて認識したので、もっと輝かせたいということで話させていただいた。

《委員発言》

【今井委員】

- ・素晴らしい。何より熱が伝わった。SLはいい発想。

【加藤委員】

- ・ポッポの道をもう一度SLが走るのもいいと思った。それだけで一年中お客さんが来てくれる。私もポッポの道で馬そりとか馬車を走らせることを考えていたが、やはり鉄道の町なので、なんとか復元できないかと感じた。

【石畑委員長】

- ・ちなみにSLの保存状態はいいと聞いている。

【加藤委員】

- ・ちょうど狩勝高原再整備の計画があるから、SLを利用すれば集客力がかなりアップするのは。SLがここから走って、狩勝高原にトロッコがあつて、庭園鉄道があつたら一日楽しめる。

【今井委員】

- ・庭園鉄道の状況はどうか。

【事務局】

- ・ちょうど前の土曜日（7月15日）から走らせており、8月いっぱいまで土日祝日お盆期間の営業で、家族連れに好評。ただ、周知不足もあり、一日に20数名程度の来客。

【金沢委員】

- ・資料には盛り込めていないが、最初に考えていたのはシャッター街のこと。店をどうにかするのが一番いいが、とりあえず下りているシャッターを明るくしてはどうかということ、シャッターにペイントするということを考えた。そこで写真を撮ってインスタグラムであげられるように。芸術性がありウィットに富んだ絵を描ける人を知っている。
- ・仕事の関係があるので、申し訳ないがここで退出させていただく。

(18:25 金沢委員退出)

(1) 第1回検討会議の論点の確認(資料1)

- ・事務局から説明

【事務局 新得町産業課観光計画係 金澤係長】

- ・第1回の会議において出た意見等のうち、ポイントと思われるものを裏表両面1枚で整理した。
- ・主な意見として、大きくは2つあり、1つ目は、特急が停まることやサホロ地域など新得町は観光に恵まれているものの、駅前商店街に活気がなく、町並みに魅力が感じられてないため、活性化が課題ということ。
- ・2つ目は、情報発信力に欠けているということで、情報をわかりやすく、どこにどのように出すのか、きめ細かな対応が必要ということ。
- ・この2点はビジョンでも大きく取り上げる必要がある事項ではないか。
- ・前回の議論でサホロ方面から市街地へどれくらい観光客が流れてきているかという話があり、無料観光循環バスの乗車実績を資料4として用意したので、ご参考いただきたい。

《委員発言》

【今井委員】

- ・新得町まち・ひと・しごと創生総合戦略と整合性を図るとしているが、もう少しそのところを説明してほしい。総合戦略は平成27年度から始まっていて、ビジョンがそれにすりあわせていくというのはどういうことなのか。
- 総合戦略では観光分野について「観光資源の効果的活用と情報発信」と整理され、具体的事業としては①狩勝高原園地再整備、②戦略的な観光宣伝と観光客誘致活動、③外国語表記サインの整備・Wi-Fi整備の3点が掲げられており、この3点についてはビジョンの中でも反映させていくという形で整合性を図る。この内容は基本的なことで、必然的にビジョンに含まれると思うので、総合戦略をあまり意識しすぎる必要はない。
-

(2) 骨子案の検討・決定(資料2、3)

- ・事務局から説明

【事務局 金澤】

- ・資料2について、第1回目の会議でも骨子案を提示させていただいたが、各項目の内容等をさらに細かく記載している。

- ・一番左の構成の部分が骨子の本体に当たる部分で、ここを本日決定いただき、構成を固めていきたい。真ん中の「内容」の部分は想定される内容を記載したものなので、今後素案をつくっていく上でどんどん変化していく部分。
- ・資料3は「たたき台」であり、前回の会議である程度の形がないとどういう議論をしてよいかわからないといった意見があったので、あくまでも議論のベースとして作成したもの。内容については何も決まったことはなく、会議の議論でどんどん修正されていくことを念頭に置いたもの。体裁も未整理で、完成版ではもっと視覚的に見やすい形に仕上げる予定。
- ・「はじめに」の部分で序論に当たる内容を記載。ここは町長の言葉を入れる場合もあれば、理念的なものや観光の現状などを記載したりする部分。資料3では1ページで、新得町の産業と観光の状況、去年の台風被害について、それから、住民が誇りを持って住み続けられるまちづくりをして、それを観光客にも好きになってもらうことが大事だということを記載するという案としている。
- ・骨子案の1「ビジョンの基本的な考え方」は、前回会議で説明したものと同様の内容。計画期間は来年度から平成40年度までの10年間としているが、これは仮置きで、長すぎる場合は5年とすることも考えられる。また、平成の年号が変わることが確定しているため、西暦表記にした方がいいかもしれない。
- ・骨子案2の「現状と課題」も、2-1「観光を巡る現状」を文章化して記載している以外は前回の会議で説明したものからピックアップして記載している。ここで現状と課題を整理し、その解決のため、次の3章で目標・方針を定め、4章で具体的実施計画に入っていくという流れになっている。
- ・骨子案3の「ビジョンの目標」について、ここでまず大きく「観光地域づくり」と掲げている。ありきたりな言葉ではあるが、理想だけ大きくして全国の他の観光地と争って頑張ってもいざ無理が生じてしまうので、魅力ある町づくりを進めて、そこに観光を結びつけるという考え方のほうが無理なく継続して進められると考え、「観光地域づくり」と掲げた。何かいいアイデアがあれば他の言葉に置き換えることも考えられる。
- ・言葉の定義も重要になるが、「観光地域づくり」を「地域が主体となり、自然、文化、歴史、産業、人材などの地域資源を活用して地域外の人との観光交流を振興し、観光産業を活性化させ、まちの魅力や活力を高め、地域への誇りと愛着を醸成することにより、持続可能な地域を創生する活動」と定義した。これで良いかは検討が必要。
- ・この「観光地域づくり」という大きな方針のもと、3つの方向性の柱を掲げており、1つ目が「活気あるまちづくり」で、その内容として①自然を生かした景観整備、②外国人観光客誘致活動、③観光客を迎え入れるホスピタリティ能力の向上、④イベントの充実等による新得町の魅力発信、を考えている。
- ・2つ目は「観光産業の活性化」で、その内容として①自然を生かした体験型観光の推進（体験観光）、②産業遺産を活用した観光振興（産業観光）、③観光施設間の連携推進、④観光関連情報の情報発信能力の強化、⑤観光ルートづくり及びPR、⑥他地域との連携、⑦全国に誇るそば

や評価の高いチーズ等の食品をPR（食観光）、としている。

- ・ 3つ目を「地域への誇りと愛着の醸成」として、前の2つの実施の結果、誇りと愛着の醸成につながることをしている。
- ・ 3-2で「目標」を定めている。基準年を27年度にしているのは、観光実態調査を行ったため、ベースとなる数字があるから。
- ・ 目標の項目として、①観光入込客数（全体）、②道外観光入込客数（含む海外客）、③観光宿泊客数、④推計観光客町内総消費額、⑤来訪者満足度、⑥リピーター率の6つをあげている。①～③は毎年調査を行っているので、数字はあるが、④～⑥を目標にすると今後毎年特別に調査を行って調べる必要がでてくる。それでも目標の項目に掲げているのは、国がこの項目を目標とすることを求めているから合わせたほうがいいとの考えから。
- ・ 具体的にどういう数字にするか、【たたき台】で仮に記載しているが、理想の数字にするか現実的に実現可能な数字にするか、検討が必要。
- ・ 3-3は「目標の検証」についてで、定量的・客観的なデータによる評価が必要なため、毎年観光客を対象とした聞き取り調査を行って必要なデータを得ることとしている。

- ・ 骨子案4の実施計画について、4-1で「重点施策」、4-2で重点施策と内容が重なるところもあるが、「個別施策（事業）」を記載することとしている。
- ・ 重点施策としては3点掲げており、「(1) 景観の魅力向上」「(2) 戦略的な観光宣伝」「(3) 外国人観光客誘致活動の推進」とし、「課題」「取組内容」の順に整理している。
- ・ 重点施策1「景観の魅力向上」について、課題の部分では、新得町は自然環境・景観に恵まれ、観光客はそれを期待しているので、ハード面の整備よりも観光客への対応等のソフト面の対策が重要としている。また、一方では、駅前を中心とした市街地は寂れた印象があるので、対策が必要としている。
- ・ 「取組内容」としては、恵まれた環境を生かす方向として、「狩勝高原園地再整備」「登山・フットパス等散策路マップの新規作成」「神社山の観光資源化」等を記載し、市街地の魅力向上として、「花壇整備及びイルミネーション設置」「レンタルサイクル・レンタカーの充実」などを掲げている。「観光素材の情報発信」「観光ルートの作成・提案」はどちらにも当てはまる項目となる。
- ・ 重点施策2「戦略的な観光宣伝」について、課題として、消費者ニーズの多様化により、多様な志向を持つ旅行者を想定したきめ細かな情報発信や受入体制の整備が必要であるなどとしている。
- ・ 取組内容としては、「観光協会ホームページ及びSNSにおける情報の網羅性・即時性の充実」や、「駅周辺の公衆無線LAN環境の整備」「町内観光施設連携の取組」などを掲げている。
- ・ 重点施策3「外国人観光客誘致活動の推進」について、新得町の外国人観光客の多さは観光において比較優位の状況にあるので、経済波及効果を高めるために、いっそうの外国人観光客の増加を図るための受入体制の整備が課題だとしている。
- ・ 取組内容として、「観光協会HPの外国語表記の充実」「観光事業者向け外国人観光客対応研修の実施」「観光パンフレット、外国語表記サイン、飲食店メニュー等の多言語対応」等を掲げている。
- ・ 4-2「個別施策（事業）」について、第3章で掲げた方向性の柱をもとに、その項目別に個別

施策を掲げており、重点施策に挙げた施策もここで再掲している。事業とその簡単な内容という形で整理しているが、個別施策の実施主体は観光協会となるものも多く、具体的な実施方法については観光協会の主体的な判断に任せた方がいいとも考えられる一方で、それではビジョンを見ても実際に何をするのかわかりにくいということもある。いくつかの事業については、ピックアップの形で1ページ程度で図なども用いてわかりやすい形で表示できないかと考えている。

- ・骨子案5の「実施体制」について、ビジョンの実施体制を明確にするために、中心的な推進主体である観光協会の体制をこれからどうするか考える必要がある。観光協会の独立についてはこれまでも検討されてきたが、実現していない現状にある。ビジョンをつくるこの機会に観光協会の方向性を決めていきたい。
 - ・観光推進体制のあり方を考える上では観光庁が進めている「日本版DMO」が参考になる。これまでの組織では課題解決の能力が不十分であったので、「観光地経営」の視点に立って観光地域づくりを実現するための法人が日本版DMOで、法人格を持つことや対外的に最終的な責任を負う者が明確化されていること、データに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略に基づき活動することなどに特徴がある。
 - ・この日本版DMOの理念を各地において果たして来たのは観光協会であり、新得町においても観光地域づくりの実現のため観光協会の体制強化が必要であり、【たたき台】では独立を前提に検討を進めるとしているが、その方向性で良いかご意見をいただきたい。
 - ・DMO化は理想だが、現実的には民間事業者・専門人材・費用面等で難しく、できる範囲でその理念に沿ってやっていくというのが現実的な線ではないか。
 - ・5-3「町民・事業者の役割」について、「観光地域づくり」を掲げる以上、町民等の協力も必要ということで掲げている項目。
-

【石畑委員長】

- ・大変長くなったので、章ごとに意見を伺って参りたい。
- ・まず、序章の「はじめに」について何かあるか。

《委員発言》

【石畑委員長】

- ・たたき台では新得町の状況など箇条書きで書かれているが、これを文章化していくということでよいか。
- 最終的には文章化する。

⇒異議なし

【石畑委員長】

- ・次に、第1章の「ビジョンの基本的な考え方」について、大枠の項目で何か意見はあるか。

《委員発言》

【藤森委員】

- ・計画期間が10年ということだが、5年くらいできっちりした計画をつくったほうがいいのではないか。

【野村副委員長】

- ・10年でできるものは10年、5年でできるものは5年というように分けて考えてもよいのでは。

【石塚課長】

- ・町の総合計画は10年で、毎年点検し、中間年で見直ししていくことになっている。

【高橋委員】

- ・短期・中期・長期で、すぐにやらなくてはいけないものは3年以内にここまでやるとか、10年だとみんな歳を取ってしまう。今すぐやらなくてはならないことはたくさんあると思う。やるべきことをやっていくという目標期間が必要ではないか。

【加藤委員】

- ・実際計画してすべて実現とはいかないと思うが、実現可能性がないと話だけで終わってしまうから、皆の意見が一致したものは実現する方向でもっていかないと夢の夢で終わってしまう。

【石塚課長】

- ・先ほどのSLを走らせるのは夢のような話だ。金額があまりにもかかりすぎる。

【今井委員】

- ・具体的にいくくらい掛かるかわかれば「これは10年では無理」とか判断ができる。

【加藤委員】

- ・お金をかけずにできる環境なり資源があるから、皆さんで知恵を絞ってやっていければ。

【高橋委員】

- ・SLは無理だったとしても、何か別のものでも楽しくつなげられれば。夜にサホロ地区から市街地に楽しく来てもらって、町を楽しんでもらって帰れるみたいな。一つひとつ単体で見るのではなく、全体としてまとめて見れば一つのプランとして可能なのではないか。

【石畑委員長】

- ・計画期間はどのような形でいくか。

【事務局】

- ・個別施策（事業）のところで、事業ごとに短期・中期・長期と記載していくことではどうか。

【今井委員】

- ・一番短いのはどのくらいの期間か。

【石畑委員長】

- ・現実的に予算のことも考えれば3年くらいか。

【事務局】

- ・それはやはり事業による。情報発信など、来年度にすぐにできるものもあれば、勝高原園地再整備のようにある程度のスパンで見なければならぬものもある。たたき台に案として記載しているものはほぼ短期でできるものだと考えている。

【野村副委員長】

- ・通過型の観光であるということが問題であると背景のところに記載があるが、これを解消するために長期的に対応することが必要。

【事務局】

- ・個別施策（事業）のところに「通過型観光の解消」としか書かなければ具体的ではないので、長期になると思うが、通過型観光への対応だとしても具体的な事業を記載するなら短期になるかもしれない。

【石畑委員長】

- ・通過型から滞在型にということであれば、民泊という形で農家さんが受け入れているところもあるが、もう少し観光用として用意できれば、ホテルなど建てなくても滞在型ということに貢献できる。

【今井委員】

- ・インバウンドに関しては、日本の生活を見たい、体験したいということがある。いっぱい空き家があるので、空き屋対策としてもインバウンドの方に宿泊してもらえば。

【石畑委員長】

- ・インバウンドの方は1週間から10日くらい泊まることもあるので、空き屋を使って宿泊できるようにするのは宿泊先を確保する一つの方法。

【野村副委員長】

- ・今ゲストハウスがはやっていて、札幌のすすきなので、カプセルホテルのような感じで2段ベッドが両側に15列くらい並んでいて、一部屋に30人くらい泊まっているところが3～4階建てである。僕が行ったら、平日だったがびっちり入っていて、8割以上が外国人。富良野でも友人が納屋を改造して2段ベッド用意して泊めるということをしているが、外国人がネットで調べてどんどん来るらしい。新得でやるとしたら、そういうことができる物件があるということを紹介したりして、宿泊できる物件を増やす手伝いすることなどはできる。

【高橋委員】

- ・町内の宿泊施設の利用率はどのくらいなのか。

【事務局】

- ・稼働率を調べたものがあり、単純に年間営業日数と部屋数と宿泊客延べ数で算出したものだが、サホロリゾートホテルは41.7%、クラブメッドは45.4%、宮城屋旅館は29.5%、新得旅館は31.8%、東大雪荘が29.7%、レイク・インが40.0%といった状況。

【古川委員】

- ・商工会のところの観光案内所で、観光客の質問はどういった割合か。

【岩宮委員】

- ・今の夏の時期だと登山客の案内が多い。また、アジア圏の客が多く言語面の障壁を感じる。質問としては宿泊施設とか、食事処とか、温泉施設では駅前周辺で少し時間ができたがどこで入浴できるか、といった質問が多い。

【今井委員】

- ・(インバウンド客に対し) 本当にしたいことが言えない、聞けない、窓口になれないということがある。

【石畑委員長】

- ・指さし案内のもう一つ向こう側が必要。指さしで対応できない質問が多い。指さし案内は使い勝手がありそうでない。片言の英語でいいから覚えていくしかないかなど。

【今井委員】

- ・メニューについて何とか説明できたが、アレルギーのことを聞かないといけない時に誤った聞き方をしてしまったことがある。

【藤森委員】

- ・(居酒屋の)「げんや」さんは外国人客が多い。奥さんが頑張って英語で対応しているから、それが広がってクラブメッドのG. O (ジェントル・オーガナイザー:クラブメッドのスタッフ) が来ている。

【今井委員】

- ・(外国人観光客に対し) 背中を向けてしまってはダメ。

【石畑委員長】

- ・項目についてはこれでよろしいか。

⇒異議なし

【石畑委員長】

- ・第2章の「現状と課題」については、前回会議で説明したが、現状のデータが多いので、ここに関しては骨子について問題ないと思うが、何か今の時点で挙げておきたいことがあれば意見を伺いたい。

《委員発言》

【石畑委員長】

- ・私が一番気になっているのは、果たして町民の方がどれくらい観光のことを受け入れる気持ちがあるのかが疑問。みんなの意思の底上げはかなり難しい。そのあたりをうまく整理しないといくら観光ビジョンをつくって頑張っても進んでいかない。そのあたりのことも含めていったほうがいい。

【今井委員】

- ・新得町は保守的なまち。

【古川委員】

- ・なかなか脱却できない。世代交代すれば良くなるのでは。

【石塚課長】

- ・平気で自分の町のことを否定する。自分の好き嫌いで判断する。

【石畑委員長】

- ・先ほどの話に出たイルミネーションやシャッターへのペイントの件も町民の協力が必要。

【野村副委員長】

- ・シャッター街の問題は全国的なものなので、先進事例のまねでもいい。

【石畑委員長】

- ・項目についてはこれでよろしいか。

⇒異議なし

【石畑委員長】

- ・次に、第3章の「ビジョンの目標」について、何か意見はあるか。

※第4章の議論も同時に行われた。

《委員発言》

【今井委員】

- ・昔ながらのお祭りなどが誇りとか愛着につながると思う。楽しそうなまちづくりが雰囲気を変えたり、お客さんと呼ぶ。我々がやっているイベントが空回りしている気がすることもある。

【加藤委員】

- ・イベントで出店者が停めてはいけないところに平気で車を停めている。イベントはお客さんがいないと成立しない。
- ・芝生の上でやるイベントにいい印象がある。栄町公園も閑古鳥が鳴いているような状況だが、素晴らしい公園。いいところをもっと生かしたイベントづくりができれば。サホロ湖キャンプ場も素晴らしいが、町民は知らない人も多い。

【今井委員】

- ・もったいない施設がいっぱいある。調査してそういうところを掘り起こす。

【高橋委員】

- ・前の日曜日、サホロリバーサイドに町外からランナーが100人くらい来ていた。5月の狩勝トレイルランでも300人くらい来た。帯広のサッカーグラウンドが今は使えないから、新得に何百人と来ている。人が来る環境はイベントをやらなくてもある。来た人に飲食店などPRする。どういうきっかけで来たか聞くと、口コミだったりする。ガンケフェスなど若い人が頑張っているイベントは支援してあげる。人は集まっているが町の人知らないイベントがある。

【加藤委員】

- ・町には知らないのに否定的な人が多い。

【今井委員】

- ・町民の意識改革が必要。

【加藤委員】

- ・数年後にサホロリバーサイドに全天候型の施設ができるから、観光資源で、オリンピック選手を呼ぶとか企画を立ててもいい。

【野村副委員長】

- ・地元の人対策が必要。

【加藤委員】

- ・地元の人が景観・自然の良さを結構知らない。当たり前になって感動がない。

【藤森委員】

- ・町民向けに再発見バスツアーをしてみてもどうか。町民は意外にベアマウンテンとか行ったことがないのでは。

【今井委員】

- ・そばくる（新得町コミュニティバス）は皆さん乗ったことはあるか。

【石畑委員長】

- ・うち（新得ハイヤー）は全然ライバルではなく、頑張ってもらいたい。乗る人と乗らない人の差が多いよう。

【高橋委員】

- ・（イベント等で）ソフトクリームのクーポン券を配ると結構効果がある。100枚配って10枚くらいは戻る。

【石畑委員長】

- ・項目については問題ないということで良いと思う。

⇒異議なし

【石畑委員長】

- ・一番問題なのは町民の皆さんの意識向上ということか。

【今井委員】

- ・自分から「この町を見て！」という熱がほしい。町民の意識を変えるのは難しい。

【石畑委員長】

- ・直接聞いたわけではないのでわからないが、観光客を面倒くさいと思っている人が多いのかなと思っている。商店をやっている人にもそういう人がいるのでは。

【今井委員】

- ・いる。特に跡継ぎのいないところは。もうどんな手を打ってもダメだからと腰が引けている。

【高橋委員】

- ・否定的な人の意識を変えるのは難しいので、やる気のある人のバックアップをする。

【野村副委員長】

- ・駅前カフェとかやりたい人もいると思うので、そういう人の背中を押せば。

【高橋委員】

- ・CHA I（フリーペーパー）のクーポンとか結構来る。

【石畑委員長】

- ・高齢者のバスツアーがあるが、大体みんなソフトクリームを食べている。

【高橋委員】

- ・ソフトクリームは一人では食べないらしい。団体に食べる。一人では恥ずかしいらしい。確かにそうで、一人で来る人はあまりいない。
- ・土曜市場がある。以前は農協の前でやっていたが、テントを張ったりが大変で何とかしようと言うことで、今年は（駅前の）旧玉川商店でやることにした。バックアップが何も無いのが大変で、人手不足。8月5日から9月16日まで全部で7回の開催。野菜中心。観光客にもお知らせできれば。

【野村副委員長】

- ・車で道路を通る人が畑になっている野菜を見て、「どこに売っているんですか」と聞かれても答えられなかったが、「土曜日に駅前で売っています」とインフォメーションできればお客さんもうれしいし、地元の人が行くところにお客さんも行きたいので、うまく観光と繋げられる。

【石畑委員長】

- ・第5章の「実施体制」の観光協会のあり方について意見はあるか。

《委員発言》

【今井委員】

- ・リーダーシップをとるような人が民間から出てこないと単独では難しいということか。

【事務局】

- ・難しいが、それが理想。観光を振興するために、例えば観光協会はレンタカーくらいしか収益事業を行っていないが、収益事業を拡大してやっていくにはやはり独立した方がいいのではないかと考えられる。

【藤森委員】

- ・私は以前紋別観光協会におり、そこは一般社団法人で7人の職員がいて人がそろっていたので、専門的に仕事ができる。着地型観光として紋別に来た観光客に案内人をつけて収益を得たりしていた。本当は新得でもそういうことをやりたいが、なかなか難しい。

【石畑委員長】

- ・課題は何か。

【藤森委員】

- ・現状では人員体制等厳しい。

【石畑委員長】

- ・収益事業を活発化させることは重要になるのか。

【藤森委員】

- ・独立するなら事業収入がないと無理。

【石塚課長】

- ・独立したら、町から観光パンフレットの作成委託料の受託収入などが得られる。当面は町からの補助もある。

【野村副委員長】

- ・例えば、我々にお客さんを紹介してくれたら手数料を払うとか、そういうことで少しずつ積み重ねてやっていくということでもできなくはないのかなど。

【藤森委員】

- ・宿泊斡旋を前（紋別観光協会）でやっていて、宿泊業者から10%もらっていた。結構いい収入になる。
- ・レンタカーは今は毎日2～3台出ているが、やはり冬場は落ちる。

【石畑委員長】

- ・台数を増やしたり、車種変更をしたりはしないのか。

【藤森委員】

- ・これまで2台だったところ、今は4台用意している。大型車も空いていれば手配できるがなかなか厳しい。
- ・クラブメッドのお客さんが6～7割。トムラウシ登山のお客さんも多い。

【石畑委員長】

- ・クラブメッドのバック料金の中にタクシー代も入っている。

【佐々木補佐】

- ・行政はバックアップする方だと思うので、観光協会が独自性をもってやりたいことをやるには独立した方がいい。独立してやっている観光協会も事務局長に役場職員が兼務していたりして、完全な独立ではないところもある。行政が口出ししないで自由な発想でやってもらって、収入を得ていくというシステムができればいいなと思っている。
- ・レンタカーの業務について、昨年度は100万円くらいの収入だったが、それならアルバイトを雇うという考え方もできる。

【石塚課長】

- ・町長は独立推進派。

【高橋委員】

- ・やるなら早い動きの方がいい。保守的な考え方の人からは、収益を得ながら役場からも補助金をもらっていることに悪い印象を持たれる。

【藤森委員】

- ・今はこれといった事業収入がない。母体となるものがあれば。

【高橋委員】

- ・そこがいかにか我々と協力し合えるかで、我々が観光協会を盛り上げてあげられれば独立していきける。そうしたらもっとアイデアも生まれる。

【野村副委員長】

- ・観光協会が旅行代理店になるというのは。

【藤森委員】

- ・供託金に300万円かかる。

【石畑委員長】

- ・これで大体全体的に意見を聞いたが、骨子に関してはこれでよろしいか。

⇒異議なし

(3) 意見交換

【石畑委員長】

- ・何か他に意見等はあるか。

⇒なし

(4) 次回開催

【石畑委員長】

- ・次回の会議については。

【事務局】

- ・次回会議はスケジュール案のとおり9月中の開催を目指しており、8月中にこれまでと同じように日程調整の案内をする。
- ・次回は今回の議論を踏まえ、素案を提示するので、それを踏まえて議論いただければ。11月の会議で素案の決定を目指しているのでよろしくお願ひしたい。

【石畑委員長】

- ・意見があれば個別に直接事務局に言っていただいて構わない。

以上